

2020年度学校評価		教育に関するもの	具体的評価項目および指標	取り組みと成果	評価(5段階)	
I 教育活動に関するもの		(1)教育目標・教育計画			自己評価	関係者評価
		①教育目標の設定 ②教育計画の作成 ③教育課程の編成 ④教育活動の評価	本年度の重点目標を明確にする 重点目標に向けて話し合い、指導計画を作成している 毎年教育課程の見直しをし、現状にあった加除修正をする 学校評価のうち自己評価・関係者評価に取り組む	全ての子どもが健やかに成長するために適切な環境が等しく確保されることを目指して教育・保育方針、教育課程等を作成している 今年度も更新した 保護者による関係者評価を実施	4 4 4 4	5
		(2)教育内容保育指導 ①指導計画の立案 ②保育内容の精選 ③指導方法の工夫改善 ④評価	教諭会で保育内容の精選や指導方法の工夫に努める 各学年の園児の様子を基礎にして保育内容を構築し今後のあるべき姿を考えながら取り組む 学校評価のうち自己評価・関係者評価に取り組む	毎週1回の教諭会および毎月末のカリキュラム編成会議には、全教諭が参加し教育内容保育指導に関して協議して、指導計画案を作成、各学年、一人ひとりに対応して細かく保育内容及び指導方法を工夫した。関係者評価のためのアンケートを実施	5 4 4 3	5
		(3)園行事 ①指導計画の立案 ②行事の精選	園の教育理念に基づいて教諭会で立案・内容の検討を十分行い、取り組む全園児が喜んで参加できるよう工夫する	恒例の行事はコロナ禍防止対策を講じながら、安心、安全に行ことを心がけ、大切な行事は時短・縮小することで対応した 全園児が喜んで取り組めた	5 5	5
		(4)人権教育 ①指導計画の立案 ②保育内容の精選 ③指導方法の工夫改善	一人ひとりの個性・成長過程を大切に、園の保育方針に基づいて保育内容を工夫する 子どもたち同士の関係性に偏りが無いか把握する 人権教育に関する研修に積極的に参加する 外国にルーツをもつ保護者に日本の教育文化を理解してもらう「お母さんにほんご」のクラスを設ける	子どもの意思及び人格を尊重して、常に子どもの立場に立って教育・保育をした 子どもを国籍、信条、社会的身分又は費用を負担するか否か等によって、差別的取扱いをしない 子どもの人権の擁護、虐待の防止等のため、園長は必要な体制の整備を行った。教職員研修の機会がなかった 外国人保護者が日本語を学びつつ日本の教育や文化への理解を深めることができた	4 4 4	5
		(5)園児指導 ①組織的な指導 ②教育相談・幼児理解 ③家庭との連携 ④関係機関との連携 ⑤いじめ問題について	日々、現状認識、課題等について共通理解の上、教員全員で指導に当たる 園児の情報を集約し園児理解に努め、必要に応じて相談や指導を行う 必要に応じて家庭との連携をとり、保護者と共通理解を図りながら指導する	教諭会において全園的に課題を共有し、教育・保育案を立てることができるようになった 地域及び家庭との結び付きを重視し、兵庫県、市、小学校等の学校、他の教育・保育施設等、保健医療サービス若しくは福祉サービスを提供する者と密接な連携に努めた	4 4 4 4 4	5
		(6)特別支援教育 ①組織的な特別支援教育 ②特別支援教育の内容 ③指導方法の工夫改善 ④家庭との連携 ⑤関係機関との連携	園全体で課題を共有する 一人ひとりの発達過程、状況を把握し、各学年の保育の中で集団生活を楽しめるよう、一人ひとりに合った指導方法を検討する 保護者の考え方や取り組み方を共有し、個々に関わって療育等の機関および県・市の関係機関に相談する	各学年にいる支援を必要とする子どもと学級の子どもが助け合い共に育っていくよう保育内容を常に検証した 個別指導、対応の方法を専門家から学び保育に取り入れた 保護者の考え方を尊重し意見交換をして協力した 関係機関と密接に連絡をとった キンダーカウンセラーを置いて園児・保護者・教職員をサポート	4 4 4 4 4	5

評価(5段階)

5 極めてよい

4 良好である

3 概ね良好であるが一層の努力を期待する

2 問題がある

1 著しく問題がある